HOTeye ホットアイ

心と心のかよいあう福祉の情報誌

2026 Vol.123

P1 特集 社会福祉事業所紹介
働きやすさとケアの質の向上を一体化した取り組み
社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」

P5 チャレンジ福祉の仕事
社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」

P6 福祉専門職の紹介
「介護福祉士」
気づきを大切にしてチームケアにつなげる

P7 福祉人材センター情報
保育士等就職支援コーディネーター、保育士キャリアアドバイザーがあなたの就職をお手伝いします!

P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
「椿の森」を後世に伝える会

P9 ボランティア・市民活動センター情報
鳥取大学附属特別支援学校 高等部専攻科
「ほっこり交流」

P11 ことぶき高齢者情報
ニュースポーツ貸出用具紹介

P12 ことぶき高齢者情報
いきいきシニア

P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

福祉の仕事は、人のため、自分のために可能性のある仕事



生産性向上の推進で生まれた時間を入居者との散歩などにあて、博愛苑の敷地から見える秀峰大山を望みながら穏やかな時間を過ごします

社会福祉法人博愛会

介護老人福祉施設 博愛苑

伯耆町にほど近く、南東に秀峰大山を望む米子市の田園風景の中に
全室個室でユニットケアを行う「介護老人福祉施設 博愛苑」はあります。
博愛苑では、昨年度より職員の働きやすさとケアの質をともに高めるため、
「生産性向上」に取り組んできました。その取り組みが評価され、
このたび『介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰』の「奨励賞」を受賞しました。
今年度は、これまでの取り組みをさらに発展させるため、
「生産性向上」「生活支援」「人材育成」の3つのチームを編成し、
福祉サービスの質の向上に取り組んでいます。



生活支援チームが企画運営する毎月1回開催される「コーヒー喫茶」では、入居者が各々の都合の良い時間に訪れ、ケーキとともにスタッフとの会話を楽しみます

働きやすさとケアの質の向上を一体化した取り組み

博愛苑では、入居者が入居後も、それまでの暮らしや人とのつながりを大切にしながら、その人らしく生活できる環境づくりに努めています。

そのためには、「介護の質を高めるだけではなく、職員が入居者としっかりと向き合える環境をつくることが必要だと考えています。そこで前年度から、職員が日々の業務の中で感じている負担や課題に目を向け、これまで当たり前に行ってきた業務を一つひとつ見直すなど『生産性向上』に取り組んできました。単に業務を効率化するのではなく、職員の負担を軽減し、そこで生まれた時間や余力を入居者との関わりやケアの充実につなげることを大切にしてきました」と、施設長の渡邉智之さんは話します。

業務改善によって時間を生み出し、その時間を入居者の生活の充実につなげる。そして、その改善を職員自身が考え、実践し、継続できる組織をつくる。職員が働きやすく成長できる環境づくりと、入居者への支援の質を高めることを一体として進めることが生産性向上の目的であり、現在の博愛苑の大きな特色だということです。

職員自ら考え、実践し、また改善する組織づくり

生産性向上への取り組みに当初から関わり、中心となってきた増山健一課長は「業務や記録方法を見直すことで職員の負担が軽減され、業務内容や役割が明確となることで、慌ただしさや迷いが減り、その結果、職員が落ち着いてケアに取り組めるようになったと感じています」と話します。

そして「特に大きな変化は、職員の意識が変わってきたことです。改善の効果を実感する中で、職員から意見や提案が出るようになりました。また、取り組みを進める上で、管理者と現場職員が一緒に課題を考え、実践し、振り返り、改善するこの繰り返しによって、職員自身が自主的に考えられる組織になることも、重要な成果の一つだと思っています」と話します。


生産性向上を推進した増山健一課長

「生産性向上チーム」は、入居者のため、職員のために

その中で、1日の業務の流れや優先順位を分かりやすくするために導入したのが「マスターライン」というマニュアルです。各勤務帯の業務を洗い出して時間軸で整理し、新人職員を含め、経験年数にかかわらず、誰が見ても次に何をすればよいのかが分かるようにしながら、修正を重ねています。

「職員が入居者と向き合う時間を増やすために日々の業務を見直し、職員の負担を軽減し、そこで生まれた時間や余力を、入居者との関わりやより良い支援に繋げていくことを目指しています」と、生産性向上チームのリーダー松浦崇課長は話します。

職員アンケートを年2回実施し、その結果をもとに、「この業務は本当に必要なのか」「もっと効率的にできないか」「職員によってやり方が違っていないか」という視点から、一つひとつの業務を見直しています。

その中で特に大切にしているのが、経験年数にかかわらず「誰が行っても同じように業務を進められる仕組みをつくること」だと言います。

さらには「私たちが考える生産性向上は、単に仕事を早く終わらせる



社会福祉法人博愛会
介護老人福祉施設 博愛苑
わたなべ ともゆき
渡邉 智之
施設長

ことではありません。業務の中にある無駄や負担を減らし、そこで生まれた時間を入居者との会話や個別のケア、その方が望む生活を実現するための時間に充てていくことです。そこに繋がって初めて、生産性向上の意味があると考えます」と話します。


生産性向上チームリーダーの松浦崇課長

「生活支援チーム」は、ご入居者の希望のため

「生産性向上で生み出された時間をご入居者の楽しみや、その人らしい生活に繋げていくのが生活支援チームの取り組みです」と話すのは、生活支援チームリーダーの長瀬由卓課長です。

カラオケや映画鑑賞、手芸、脳トレなどの活動に加え、買い物や外出支援、「コーヒー喫茶」などにも取り組んでいますが、単に行事やレクリエーションを増やすことではなく、「この人は何が好きなのか」「これまでどのような生活を送り、博愛苑に入居してからも何を続けたいのか」という視点から、その人の生活を考えることを大切にしています。

博愛苑に入居した後も、それまでの暮らしや人とのつながりをできる限り継続し、その人らしく生活してもらう。そのような支援を、生活支援チームだけでなく、職員一人ひとりが入居者の希望や生活に目を向け、自ら考えて実践できるようにしていきたいと、長瀬課長は願っています。

「人材育成チーム」は、博愛苑全体の好循環を図るため

人材育成チームリーダーの長木大明課長は「生産性向上や生活支援の取り組みを博愛苑全体に広げ、継続していくためには、職員一人ひとりが自ら課題に気づき、考え、行動できるようになることが必要です」と話します。


人材育成チームリーダーの長木大明課長

今年度は、現場責任者を対象とした研修や事例検討、グループワークを行い、職員の意見を引き出す力や、現場の課題を改善につなげる力を高める取り組みを進めています。また、外部研修への参加や資格取得も支援し、そこで得た知識や技術を現場で実践し、職員の学びを博愛苑全体の力へと広げ、その力を入居者への支援の質の向上につなげることを目指しています。

さらに、介護現場の悩みを介護職だけで抱えるのではなく、看護職、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職と一緒に考えることで、多職種連携の強化にも取り組んでいます。

「職員が成長し、チームが成長する。その力を入居者へのより良い支援につなげる。そのような好循環を博愛苑全体につくることが、人材育成チームの役割だと考えています」と、長木課長は笑顔を見せます。


入居者が取り組む趣味のちぎり絵を見守りながら一緒に楽しむ

働きながら学び、成長できる環境づくり

職員が安心して働き続けられる環境をつくることも、入居者への安定した支援に繋がります。そのため博愛苑では、福利厚生の充実はもとより、男性職員も育児休業を取得しており、仕事と子育てを両立できる環境づくりを進めています。

博愛会では、高齢者福祉だけでなく、生活介護や放課後等デイサービスなどの障がい者福祉事業も行っており、事業所間の交流を通して、子どもたちと高齢者が世代を超えて関わる機会を設けています。

また、博愛苑では、地域のボランティアの協力により、毎月さまざまな

イベントを開催して地域と入居者のつながりを保ち、地域の方やさまざまな世代との交流を通して、入居後も社会とのつながりを感じてもらえる環境をつくっています。こうした取り組みは、職員にとっても学びや気づきの機会となっています。

また、新入職員には「チューター制度」を導入し、仕事を教えるとともに、新しい職場で感じる不安や悩みを相談できるようにしています。その後は、キャリアパスに沿った研修を行い、一般職員だけでなく、現場責任者、主任、課長など、それぞれの立場に求められる役割や能力を学び、次に自分が目指す姿を意識しながら成長できる仕組みを整えています。

資格取得についても、実務者研修や喀痰吸引等研修の受講、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得を支援し、研修日は出勤扱いとするなど、働きながら専門的な知識や技術を身につけられる環境も整えています。

このように、一人ひとりが専門性を高め、自分の役割を広げ、その力を入居者へのより良い支援につなげていくために、新入職員へのサポートから、その後の専門性向上、リーダー・管理職へのステップアップまで、職員が目標を持ち、人として成長できる環境をつくっています。

介護は誰かの人生に寄り添い支えること

「入居者一人ひとりがこれまで大切にしてきたこと、好きだったこと、家族との思い出や長年続けてきた習慣、そして〝これからどう過ごしたいのか〟という気持ちに耳を傾け、人生の最期まで〝その人らしく〟生活できるように支えることが、博愛苑での介護の仕事です。そのやりがいや魅力は、〝誰かの人生に寄り添えること〟であり、その方の〈生活〉そのものを支えていることだと思います」と話すのは長瀬由卓課長です。

博愛苑での生活に入居者を合わせるのではなく、入居者の生活に職員が合わせていく。そうした日々の積み重ねが、その人らしい暮らしを支える介護につながり、その姿を見られることが、博愛苑で働く大きなやりがいであり、介護の魅力でもあるとも話します。


生活支援チームリーダーの長瀬由卓課長



渡邉智之施設長からのメッセージ

福祉の仕事は、人の生活や人生に直接関わる仕事です。決められた介護をするだけではなく、「この方にもっと良い生活をしていただくために、自分には何ができるだろう」と考え、それを実現できることが、この仕事の大きな魅力だと思います。

もちろん、介護の仕事は簡単なことばかりではありません。だからこそ博愛苑では、職員一人に任せるのではなく、介護職、看護職、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士など、さまざまな職種がそれぞれの専門性を生かしながら、一つのチームとして入居者を支えています。

そして今、介護の現場も大きく変わっています。ICTや福祉機器を活用して働き方を改善し、そこで生まれた時間を入居者との関わりに使う。職員自身も研修や資格取得を通して成長していく。

人のために何かをしたい、自分自身も成長したいと思っている人にとって、福祉はとても可能性のある仕事です。ぜひ一度、実際の福祉の現場を見て、そこで働く職員や入居者の姿に触れてみてください。そして、いつか私たちと一緒に、これからの福祉をつくってもらえたらと思います。

[概要]
●所 在 地／鳥取県米子市一部555番地
●開 設 日／1999(平成11)年12月8日
●運営主体／社会福祉法人博愛会
●職 員 数／74名(正職員55名・臨時職員等19名)
内訳：施設長1名、医師1名(嘱託)、生活相談員2名、介護職員55名、看護職員8名、作業療法士1名、介護支援専門員2名、管理栄養士2名、歯科衛生士1名、運転手1名、
協力医療機関：なかむら医院、社会医療法人仁厚会米子東病院
●定　　員／89名(内ショートステイ5名)
●利用(受付)相談窓口／当該施設及び法人内施設





Challenge
チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人博愛会 介護老人福祉施設 博愛苑

福祉分野の質的変化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応えて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

穏やかな時が流れるように支えていく

社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」
作業療法士 **高橋（たかはし） 絵美（えみ）さん**





「祖母が認知症になり、自宅で母親が介護している様子を見て、福祉の仕事を身近に感じるようになりました」と話す高橋絵美さんは、学生時代にボランティアで障がいのある子どもたちを支援した経験もあり、福祉の現場で働きたいと思っていました。

入職当初は、現場の職員が忙しそうで、体力的にも大変そうだと思いましたが、人の役に立てたらという思いで頑張っています。

博愛苑の入居定員は84名で、機能訓練は作業療法士の高橋さん1人で担当しています。日々、機能訓練の計画書を作成し、入居者一人ひとりに合わせた個別の訓練やグループでの訓練を行っています。また、関節可動域訓練や麻痺のある方への訓練なども行います。

機能訓練や入居者へのケアを進める上で、多職種との連携を大切にしています。各ユニットのスタッフと相談・協力をしながら、入居者の身体機能を維持できるように支援しています。

博愛苑では入居者の「看取り」まで対応しています。人生の最期まで関わるため、身体面だけではなく、生活の質にも目を向けながら、穏やかに過ごせるよう支援しており、「入居者が楽しく、自由に、穏やかな人生を送られるように関われることが、この仕事の魅力です」と高橋さんは笑顔を見せます。

また、終末期ケアでは、入居者が最期までその人らしく生活できるよう、作業療法士として何ができるのか模索しています。

そして「身体を動かすことが難しくなった入居者も、苦痛なく過ごせるよう、体の圧迫を取り除いたり、同じ姿勢が続くことによる褥瘡（床ずれ）を防いだりするなど、最期までできる限り安楽に過ごせるよう支援していきたいです」と、高橋さんは話します。

歯と口中の健康から身体の健康を見守る

社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」
歯科衛生士 **森田（もりた） 奈保子（なおこ）さん**



「博愛苑で働くことによって、ご入居者の〈食べる楽しみ〉を支える手伝いができれば良いと思いました」と話す歯科衛生士の森田奈保子さんは、食べることが栄養を摂って健康を保つためだけでなく、生きる楽しみにもなっていると考えています。

博愛苑に入職して半年余り。それまでは小さな矯正歯科医院という全く違う環境で働いていたため、入居者の生活に関わる博愛苑の仕事では、多くの方の健康を支える上で、他職種との連携が大切だと感じています。

入居者の口腔ケアを各ユニットで月に2回行い、問題点などがあれば他職種と情報を共有し、「こんな口腔ケア用品を使ったほうがよいのでは」とアドバイスをしたりしています。また、診察が必要であれば週に1回の往診につなげています。

日常の歯磨きなどの口腔ケアを行う中で、歯のぐらつきや義歯の具合を確認し、歯周病や咀嚼の問題があれば管理栄養士と相談します。また、嚥下機能の低下によって体重が減ることもあるため、注意しています。

入居者とのコミュニケーションを大切にし、気持ちに寄り添いながら、歯ぐきの状態や口の中の腫れなど、口腔内や全身の状態の変化を見逃さないようにしています。

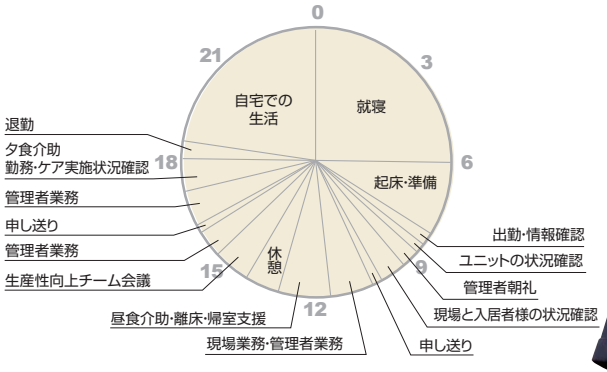
日々の口腔ケアの後に「〝いつもありがとう〟〝すっきりした〟と言ってもらえた時などに、やりがいを感じます」と、笑顔を見せる森田さんは、「人生の最期まで、口の中を清潔に保ち、気持ちよく過ごしていただけるよう、口腔ケアの技術向上を目指していきたいです」と話し、お口の健康から全身の健康を見守っています。



福祉専門職の紹介「介護福祉士」

気づきを大切にしてチームケアにつなげる





社会福祉法人博愛会「介護老人福祉施設 博愛苑」

介護福祉士 増山（ますやま） 健一（けんいち）さん

介護福祉士は、介護を必要とする方に専門的な知識と技術を用いてケアを行い、本人や介護に携わる方への助言・指導も担う国家資格です。

仕事に就いたときの印象はどうでしたか

実際に働き始めると大変なことも多くありましたが、経験を重ねる中で少しずつできることが増え、仕事を任せてもらえることにやりがいを感じていました。当初は、今ほど「入居者のために何かをしたい」という意識は強くなかったと思いますが、入居者と関わる中で笑顔を見られることは嬉しく、そうした日々の関わりに楽しさを感じていました。

現在の仕事の内容を教えてください

現在は管理職として、主に業務の見直しや職員育成に取り組んでいます。職員と意見を交わしながら、業務の流れや職員配置などを見直し、より良いケアにつながるよう取り組んでいます。また、管理職になっても入居者や職員と直接関わることを大切にし、現場で感じたことや職員の意見を業務改善やより良いケアにつなげるよう努めています。

仕事をするうえで大切にしていることは、どのようなことですか

一番大切にしているのは「今行っているケアは、本当に入居者のためになっているか」と考えることです。業務改善を行う際も同じで、やり方を変える時には、「この変更が入居者にとってどうなのか」と自問します。

また、管理職として職員との関係をつくる上では、普段から気軽に声をかけてもらえるような関わりを心掛け、話しやすい環境をつくっています。私は「コミュニケーションの先に対話がある」と考えており、日頃から良い関係性を築くことで、本音で相談したり意見を出し合ったりすることができると思っています。

仕事のやりがいや魅力などを教えてください

介護の魅力は「人と人とのつながり」にあると思います。特に、入居者との何気ない会話の中から、「こうしたら楽しんでもらえるかもしれない」「こんなこともできるのでは」と考えることに楽しさを感じます。それを実際のケアや活動につなげ、入居者の笑顔が見られたり、感謝の言葉をもらえたりした時は嬉しく思えます。

専門職、プロフェッショナルとしての思いは

介護職員は24時間を通して入居者の生活に関われるからこそ、日々の表情や声、行動など、ちょっとした変化に気づくことができます。その変化を見逃さず、看護職などの専門職と情報を共有し、体調の変化や異常の早期発見・早期対応につなげ、安心してその人らしい生活を続けられるよう支えていくことが、介護職員の大切な役割だと考えています。また、普段の関わりの中から「この方にとって何が最善なのか」を考え、チームでより良いケアにつなげていくことも大切にしています。





将来の夢や抱負をお聞かせください

職員が介護の仕事にやりがいと楽しさを感じ、それが入居者へのより良いケアにつながる、そんな博愛苑にしたいと思っています。職員が仕事に楽しさを感じられなければ、ケアの質にも影響します。そのため、介護現場の生産性向上や業務改善を進め、職員の負担を軽減することで余力を生み出し、その余力を入居者の生活の質の向上につなげていきたいと考えています。

保育士等就職支援コーディネーター、保育士キャリアアドバイザーがあなたの就職をお手伝いします！

鳥取県福祉人材センター内には、保育士・保育所支援センターがあり、保育に関する求人情報の提供のほか、相談から職場見学、採用申込から採用後まで、求職者に寄り添った支援をしています。本号では、保育士等就職支援コーディネーターの田中さん、保育士キャリアアドバイザーの臼井さん、伊奈さんをご紹介します。

コーディネーター・キャリアアドバイザーとは？

事業所情報を豊富に持ち、その人にあった事業所選びをアドバイスします。施設見学の調整を行い、見学に同行します。又、職場定着に向けた支援も行っています。

誰でも相談できるの？どうやって相談すればいいの？

保育の職場に就職を希望する方は誰でも利用できます。就職を希望する方は福祉人材センターへ求職登録をします。ネット、来所、求職票の郵送により登録していただけます。

実際にどんなことをしているの？

転職を考えている方、初めて保育の仕事に就こうと思っている方等、様々な思いで相談に来られます。どういう働き方を希望されているのかお聞きし、その方にふさわしい事業所を絞り込み、施設見学を行います。求人票だけでは分からなかった職場の雰囲気を感じてもらい、条件面等も確認し、応募の参考にしていただいています。
求職者の方々からは「施設見学についてきてもらってありがたい」「いろんな情報が聞けて良かった」と喜ばれています。

田中コーディネーター

〇読者のみなさまへ
県内の保育士確保を目的とし、学生や一般の方の就職支援をはじめ、保育者の職場定着に向けた支援や保育に関わる魅力発信など様々な活動をしています。

〇趣味など
毎日欠かさぬ晩酌とたまのゴルフ

子どもたちの目が輝き笑顔あふれる保育の世界が、あなたを待っています。



臼井キャリアアドバイザー

〇読者のみなさまへ
保育施設で働きたい方の相談を受けています。子育てとの両立、再就職への不安等気になることも含め相談者の思いにそった支援を心掛けています。

〇趣味など
ヨガ、絵を描くこと

就職先を検討するにあたって、施設見学や体験の調整・同行も行います。お気軽にご相談ください。



伊奈キャリアアドバイザー

〇読者のみなさまへ
令和7年4月にキャリアアドバイザーに就任しました。これまで、幼稚園教員、幼児教育行政、保育者養成に携わってきました。たくさんの子どもたち、保育者、保護者、学生、行政関係者の方と関わってきた経験を活かして、保育のお仕事に関心をお持ちの方に寄り添った支援に努めて参ります。

〇趣味など
本屋さんの絵本コーナーや図書館で、絵本を見るのが好きです。県外に行ったときは、大型書店でワクワクしながらお気に入りの絵本を探しています。

保育の現場は大変だから…と「保育のお仕事」に不安を感じたり、躊躇されたりする方もいらっしゃるでしょう。決して楽な仕事ではありませんが、何より子どもたちの笑顔に元気をもらい、子どもたちの成長を間近で感じる喜び、やりがいがあります。職場見学にも同行しますので、お気軽にご相談ください。



来所、電話いずれかの方法でお気軽にご相談ください。(無料)　※土日・祝日・年末年始はお休みです。

鳥取県保育士・保育所支援センター
鳥取市伏野1729-5　TEL(0857)59-6342　受付:月曜日～金曜日　8:30～17:00

とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

「椿の森」を後世に伝える会



「とっとりボランティアバンク」はボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する“きっかけ”を提供するため、県内の生活支援や災害ボランティアを中心にした情報を収集・発信しています。

バンクには「ボランティア活動をしたい」個人と「ボランティア活動をしたい／ボランティアを募集したい」団体が登録しています。このコーナーでは登録団体の活動や想いを紹介します。

［ホームページ］ https://www.torivc.jp

一緒にこの森を守っていこう

「椿の森」は、5haの森に約800種、2,000本の椿をはじめ、さまざまな樹木や山野草が育つ、私達の祖父母が長い年月をかけてつくり上げてきた森です。団体設立前から、家族やボランティアの皆さんが、必要な作業の際に声を掛け合いながら森の保全を続けてきました。

多くの方に愛していただいているこの森をこれからも守り、次の世代へつないでいくためには、これまで関わってくださった皆さんと一緒に継続していく仕組みが必要だと考えました。そこで、家族とボランティアの皆さんで新たな会を立ち上げたいとお話ししたところ、快く賛同してくださり、2024年4月に『「椿の森」を後世に伝える会』を設立しました。「これからも一緒にこの森を守っていこう」という一体感が生まれ、とても嬉しかったことを覚えています。



多世代交流、関わり方は十人十色

主な活動は、椿をはじめとする樹木の手入れ、雑草対策、倒木処理、散策路の整備など、森を守るための保全活動です。ボランティアの皆さんと協力しながら、年間を通して活動しています。（定例作業は、1回／月）

また、森を守るだけでなく、多くの方が自然と親しみ、この場所で過ごしていただけるよう、椿鑑賞会や自然観察会、森林を活用した体験イベントなども開催しています。子どもから高齢の方まで幅広い世代の方に訪れていただき、それぞれの楽しみ方で森にふれていただいています。

活動から見えた、喜びと課題

ボランティアの皆さんと力を合わせ、少しずつ森の環境を整える中で、森を訪れ、楽しんでくださる方が増えていることに大きな喜びを感じています。

一方、地域では人と人とのつながりや、世代を超えて交流する機会が少なくなっています。椿の森が、自然の中で子どもから高齢の方まで気軽に過ごし、人とつながる場所になればと考えています。

今年度は、鳥取県社会福祉協議会の「先駆的・開拓的ボランティア活動助成金」を活用し、誰もが自然に親しみながら過ごせる「森の居場所」づくりにも取り組んでいます。

地域とともに、100年後も

椿の森を、100年後の未来へつないでいくことが私たちの願いです。そのためには、森を守るだけでなく、多くの方に訪れていただき、自然にふれ、この場所を好きになっていただくことが大切だと考えています。

私たちだけでできることには限りがあります。無理なく活動を続けながら、地域の方々と共に、子どもたちの世代、その先の世代へと、この森をつないでいきたいと思います。



読者の方へ

椿の森は、どなたでも散策していただける森です。敷地内にカフェもございますので、四季折々の自然にふれながら、ゆっくりと過ごしていただけたら嬉しいです。まずはこの森を知っていただくことが、未来へつないでいく力になると考えています。

Instagramに団体の活動情報や各種イベントのお知らせも掲載しておりますので、ご覧いただけますと幸いです。

［問合せ先］
椿の森
鳥取県東伯郡琴浦町別所エリア

アクセス／Googleマップにて「赤碕　椿の森」と検索し、表示された経路でお越しください。住所検索をすると、細い道かつ、駐車場から遠い位置に案内されますのでお気をつけください。

Instagram　YouTube

鳥取大学附属特別支援学校 高等部専攻科「ほっこり交流」

学生の成長と地域の可能性を拓く〝ほっこり〟とした交流

鳥取大学附属特別支援学校の学生と近隣住民の交流を行う3回目の「ほっこり交流」が、鳥取市立湖山西地区公民館を会場に開催されました。鳥取県社会福祉協議会が設置する福祉教育研究委員会では、「障がいのある人の主体的な学び」について、令和4年度から「試行的実践」をしながら「多様な学びの場づくり」を進めています。「ほっこり交流」は、地域住民が学び、交流する拠点である公民館で、障がいのある方と地域住民が一方的ではなく互いに関わり合う、各地域で実践可能な福祉学習プログラムのモデルになる取り組みとして特に注目しています。

学生と参加者のふれあいで生まれること

特別支援学校は、心身に障がいのある幼児・児童・生徒に対し、自立や社会参加を目指して一人ひとりの状態に応じた指導と支援を行う学校です。


学生たちが受付をします

鳥取大学附属特別支援学校では「小学部」「中学部」「高等部本科」「高等部専攻科」が設けられ、それぞれの教育課程に合わせて、自分自身で考えて行動を選択できるようにしたり、生活や学習で困る場面を解決できるよう、指導と支援を行っています。

学生が自主的に活動できるように

この日の交流活動は、午前10時から12時の2時間で、前半はニュースポーツ「フライングディスク」で楽しく身体を動かし、後半は学生が淹れたコーヒーを味わいながら談笑する「ほっこりカフェ交流」です。

専攻科主事の中田真一郎先生は、「専攻科のめざす青年像は社会への関心をもち、様々な人と関わりながら積極的に社会へ参加しようとする青年です」と前置きし、「専攻科修了後、学生たちが地域社会に出たら、自分らしさを大切にしながら生活し、この交流の経験を活かして、地域の方と社会に自分から関わっていってほしいと思います。そして、自分が楽しむだけでなく、地域の活動にも貢献できる人材となってほしいと思っています」と期待を寄せています。


特別支援学校専攻科の中田真一郎先生

フライングディスクは簡単そうに見えて難易度が高いゲームです。室内用の柔らかいディスクを的となるリングに通して、チームごとに得点を競うゲームで、学生と参加者のチーム編成から、司会、進行まで学生たちが務めます。ディスクを輪に通すと大きな拍手と歓声が会場に響きます。外れると〝アーッ〟と落胆の声が上がり、会場は盛り上がります。

〝ほっこり〟楽しむ中で互いに理解を深める

中田先生は「学生は緊張していますが前回より馴れてきて、受け身ではなく能動的に動き、積極的になってきたように見えます」と受け止めます。

毎回参加している湖山西地区老人クラブ連合会会長の山根純一さんは、「回を重ねるごとに学生たちとの交流が〝ほっこり〟と肌で感じられ


談笑する浅尾久忍子さん(右)と司会進行を務めたこのちゃん




フライングディスクを楽しむ様子


老人クラブ連合会の山根純一会長

るようになりました。対等な立場でゆるやかな交流を息長く続けていくことで、学生と地域のためになると思っています」と話します。

「ほっこりカフェ交流」の時間ではコーヒー豆をお世話になっている専門店から仕入れ、学生だけで準備・提供をします。今日のホットコーヒーは「マンダリン」と、アイスコーヒーは「タンザニア」です。アイスは前もって準備し、ホットは一杯ずつ豆を引きドリップして提供します。

「フライングディスクが楽しかった」と言う学生のじゅんじゅん（愛称）さんと談笑する、地区の民生委員を15年間務めた湖山西地区老人クラブの森幸美さんは、「2回目の参加ですが、顔なじみにもなり楽しいです。学生たちには感心しますし、支えて来た親御さんには感謝ですね」と笑顔を見せながら、また参加したいと話します。

司会を務めた学生のこのちゃん（愛称）と談笑する元保護司の浅尾久忍子さんは、「今日初めて参加したのですが楽しかった。よく話もできて、会話があるとうち解けてとても良かったです」と笑顔で応えてくれました。


談笑する森幸美さん（右）と学生のじゅんじゅんさん（中央）

共生社会の実現に向けてひとつのヒントになれば

学生たちを見守るように参加している湖山西地区公民館の木下俊児館長は、この交流会を通して「学生の特性を理解し、自ら考え判断し、主体的・自主的に行動できるように、〈当たり前〉を押しつけず、焦らず〈任せて待つこと〉が重要だと痛切に感じます。それは教師にとっても、地域住民（参加者）にとっても、〈子育て・親（教員・大人）育ち〉の極意のひとつだと思います」と、元教員らしい見地からの言葉です。


湖山西地区公民館の木下俊児館長


学生たちがコーヒー豆をひき、ドリップして提供します

また、「湖山西地区は、多くの学校や園、福祉施設、また、外国籍の人や高齢者、生活に不安を感じている人など、様々な人々が暮らす多様性に富んだ地区です。すべての人々が暮らしやすい社会の実現には、ひとつのバリアの解消だけではなく、それぞれのバリアを総合的に解消していくという視野に立ったアプローチが必要です。この交流が、この地区における共生社会の実現に向けて、ひとつのヒントになればいいなと思います」と、広い観点から「ほっこり交流」会を見ています。

そして中田先生は、「学生と地域の方が対等な立場でアイデアを出し合い、みんなが楽しめる交流の場をつくっていければ、より良い交流になると思います。また、湖山西地区公民館での交流の経験を活かして、学生が自分の居住地で、地域の方と交流の機会をつくれば、卒業後の地域生活が充実していくと思います」と、将来に期待を寄せます。

●問合せ先・担当窓口
鳥取大学附属特別支援学校
高等部専攻科
鳥取市湖山町西2丁目149
TEL 0857-28-6340
FAX 0857-28-7078
HP https://special-main.fuzoku.tottori-u.ac.jp/
Eメール shien@fuzoku.tottori-u.ac.jp

ニュースポーツ貸出用具紹介

ニュースポーツとは、年齢や障がいの有無に関わらず気軽に参加することのできるスポーツの総称です。楽しみながら人と交流できるため、全国各地で盛んになっています。

鳥取県社会福祉協議会では様々なニュースポーツ用具を貸出しており、世代間交流イベントや施設のレクリエーション活動などに活用されています。今回は、そのうちの2つを紹介します。

大人気！テレビでおなじみ ディスゲッター9

まずご紹介するのは、「ディスゲッター9」です。



ディスクを①から⑨のパネルに投げ、落としていくゲームとなっています。貸出用具の中で、長年一番人気となっています。人気の理由は、テレビで見たことのある親しみやすさや、シンプルな用具であるため、色々なルールで遊ぶことのできる自由度ではないでしょうか。ディスクは柔らかい素材なので、プレー中の危険もありません。

ディスクは2種類9枚ずつ入っています。

遊び方（一例）

★何枚パネルを落とすことができるかを競う

★落としたパネルの数字を合計して、得点を競う

★ビンゴのように、タテ・ヨコ・ナナメいずれか1列パネルを落とした方が勝ち

ワイワイ楽しく！ コミュニケーション麻雀

続いて紹介したいのは、「コミュニケーション麻雀」です。



たわしサイズの麻雀牌

通常の麻雀と同じく136枚の牌が入っていますが、大きく違うのはその大きさ。縦10センチ、横7センチ、厚さ5センチとたわしサイズで、重さは約240グラムもあります。付属のジョイントマットに並べるだけでも一苦労です。自然に体を動かし、頭も使い、そしてなにより協力しながら遊べる、職員おすすめのニュースポーツ用具です。



大きいので絵柄も見やすい

遊び方（一例）

★通常の麻雀として、2～3人が1組で協力して戦う

★牌を裏返し、順番にめくり、同じ絵柄の牌を2つ見つける

★かるた風に、司会者が指定した牌を一番多く取った人が勝ち

他にもボッチャや、鳥取発祥のバウンスボールの用具などあります。詳しくは左記の鳥取県社会福祉協議会のホームページをご覧ください。利用を希望される方は、事前に貸出状況をお問い合わせください。

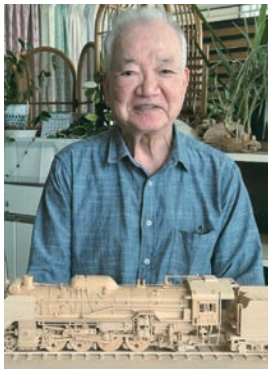
誰もが楽しめるニュースポーツで、笑顔と交流を広げましょう！

問合せ先
鳥取県社会福祉協議会
生涯現役推進室
☎0857-59-6338
ホームページ
https://www.tottori-wel.or.jp/common/rental_top/newsports/

自然の中を走る蒸気機関車 夢は“ビッグボーイ”

いきいきシニア
ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を
同世代のことぶきレポーターが取材をします。
「シニア」の「シニア」によるシリーズ。
地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなくご紹介します。


徳田和民さん

展示会場で木製の蒸気機関車をお見かけし、あまりにも素晴らしい出来栄えに感心しました。

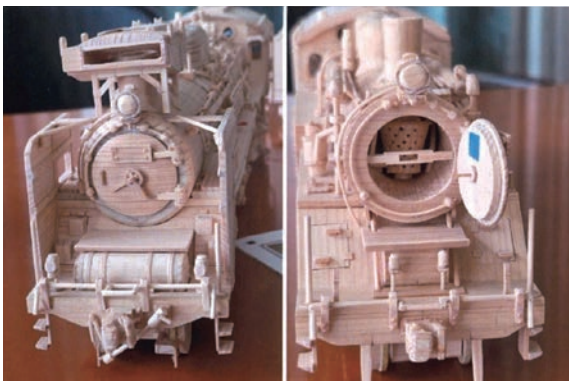
今回、鳥取県中部の北栄町にお住まいで、木製の蒸気機関車を製作しておられる徳田和民（とくだかずたみ）さん（78歳）をご紹介します。

徳田さんは幼い頃から、動物や植物などの絵を描くことや、工作、粘土などで車や飛行機など作るのが好きな少年でした。家にあるものを使い遊んでいく中で、やがて糸巻が駒になり、ギアを想像し、そして青年になり、北条平野の豊かな自然の中で汽笛を鳴らし煙を上げて走る蒸気機関車を想うちに、夢が機関車の製作になったと言われました。

仕事をしていた頃から、余暇の時間に試行錯誤をしながら少しずつ汽車の模型作りを始め、今ではSL列車のC-57、C-10など、多数作られています。

しかしながら、出来上がるまでには随分とご苦心をされたそうです。

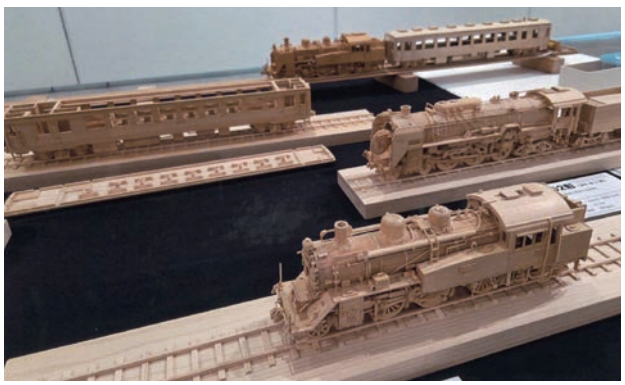
蒸気機関車の製作には檜木を使い、厚さや木目、色合いなどの材料選びから、細部の図面作成、動きのメカニズムの研究まで、一つ一つ丁寧に進められています。実物の「40分の1」の大きさに起こした設計図をもとに製作するため、細かなパーツや資料探しなど、完成までには随分と時間が掛かるそうです。それでもご家族の協力や応援を受けながら、「好きなことだから」と、日々作品作りを楽しまれています。機関車についての深い知識と、とても熱く語られるお姿に、引き込まれると同時に、こうした熱意を持って様々な難題にも月日をかけて向き合い、達成されたのだと感じました。


細部まで設計されています

展示会場では子どもから大人まで大人気です。多くの作品が展示され、さらに蒸気機関車がレールの上を走ることも出来ます。興味を持たれたお客様から色々と質問を受け、年配の方々は懐かしい昔の思い出話をし、子ども達も熱心に見て楽しんでいました。年代に関係なく誰もが楽しんでくださる、この交流が喜びだと徳田さんは笑顔でおっしゃいます。また、明治以来長い年月を走ってきた機関車が、それぞれ人々の思い出にも繋がることを思うと、出来る限り当時の本物に近いものを作りたいという思いで作っている、と語られました。

そんな徳田さんには、描いている〝夢の作品〟があるそうです。それは、伝説のSL「ビッグボーイ」というアメリカの蒸気機関車だそうで、「10年、を思うと大きな歳になるなぁ」と言いながら、やさしい奥様と笑っていらっしゃいました。

研究を重ね進み続ける徳田さん。大丈夫です!!ビッグボーイの完成を楽しみに待っています。


精巧な技術による作品たち

取材を終えて 一言



米田 睦栄さん（倉吉市）

木工、絵画と、趣味は多才でその奥の深いお話がとても面白く熱心な方でした。これからもお元気で、作品作りを楽しんでください。今にも走り出しそうな機関車に感動しました。

鳥取県福祉研究学会第20回研究発表会 研究発表 募集中!

鳥取県内の福祉現場での実践活動の成果や課題、ノウハウを関係者で共有、発展させていくことを目的に、成果を共有し合う場として研究発表会を実施しています。

募集期間:令和8年 8月3日(月)～令和8年 12月7日(月)

1 発表対象者: 鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している者、福祉に関する調査研究をしている者、その他福祉に関心を持つ団体・個人

2 募 集 内 容: 口述発表とポスター発表の2種類あります。※既に職域・職能団体の研究・研修会で発表済みの内容についても対象です(県内外を問わず)。研究及び発表にあたっては、鳥取県福祉研究学会研究倫理要綱を遵守してください。

(1)口述発表(奨励賞の該当区分)

No.	分　　野	研究発表例
1	高齢者福祉(施設系)	介護、高齢者虐待防止、認知症ケア、地域密着サービス、生きがい対策等
2	高齢者福祉(在宅系)	
3	障がい児・者福祉	生活介護、生活自立訓練、就労支援、社会参加促進等
4	児童福祉	児童養護、保育、情緒発達支援、母子・父子家庭支援、児童虐待・DV防止等
5	地域福祉	地域福祉計画、住民福祉活動、福祉教育、ボランティア等
6	その他社会福祉領域	共生型ホーム、生活保護、成年後見、権利擁護、企業CSR、食育等

(2)ポスター発表(奨励賞の非該当区分)……特に分野を分けての募集はしません。

3 開催日:令和9年 2月20日(土) 10:20～15:30 (予定)

4 会　場: 鳥取看護大学・鳥取短期大学 (倉吉市福庭854 電話0858-27-2800)

●お問合せ・申込み先: 福祉人材部(鳥取県福祉研究学会事務局) TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

そんなときは… とっとりボランティアバンク

ボランティアの力を借りたい
誰かのために力になりたい



ボランティアしたい人(団体)

ボランティア募集や関連講座・研修などの情報を受け取ることができます。



ボランティアの力を借りたい団体

HPやメルマガを通じて、ボランティア募集や関連講座・研修などの情報を発信できます。

登録すると何ができるの?

どんな活動があるの?

ご登録ください!

災害支援

豪雨や台風で被災した地域では土砂の除去や家具の運び出し等を行いました。

生活支援

話を聞いたり外出を支援したり、大雪の時は雪かきなど様々な ボランティアを行っています。

※過去の活動の一例です

登録方法

登録票に必要事項を記入のうえ、FAX、Eメール、郵送等で送付してください。

HP https://www.torivc.jp/

※HPから直接申込可能!

ご利用・ご登録は全て**無料**です

【お問い合わせ・ご相談は】

福祉振興部(鳥取県ボランティア・市民活動センター)まで TEL0857-59-6344 FAX:0857-59-6340

ボランティアに関するお悩み・ボランティアの募集や関連講座の情報等お気軽にご相談ください!

令和８年度

https://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険 検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類＼プラン			基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円（限度額）	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）		5億円（限度額）	
年間保険料			350円	500円

商品パンフレットはコチラから

ふくしの保険ホームページ

<重 要>

- 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- 中途脱退による保険料の返金はありません。
- 中途でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

送迎サービス補償（傷害保険）

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667
受付時間：平日の 9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

〈SJ25-09878 より抜粋〉

11月11日は介護の日
みんなで介護について考えてみませんか?



高齢化などにより介護が必要な方々が増加している一方、介護にまつわる課題は多様化しています。こうした中、多くの方々に介護を身近なものとしてとらえていただくとともに、それぞれの立場で介護を考え、関わっていただくことが必要となっています。

鳥取県社会福祉協議会(鳥取県福祉人材センター)では、幅広い世代の方に介護の仕事を身近に感じ、興味・関心を持ってもらうことを目的に年間を通じて様々な講座やイベントを行っています。

介護の出前講座「知ってみよう! 介護のこと」

小学生・中学生・高校生またその保護者等に対し、実際に働いている介護職員を講師やゲストティーチャーとして派遣し、高齢者や介護の知識、介護の仕事の魅力などを伝える出前講座事業を実施しています。


小学校での出前講座の様子


高校での出前講座の様子

【受講者からの感想】

■すごく大変そうだけどやりがいがたくさんありそうなので興味が出ました。

■ただ、言われたこと、しないといけないことをするのではなく、1人1人に合わせて気配りをし、行うことが大切だと分かりました。

鳥取県福祉人材センターの公式インスタグラムでは、各種事業のご紹介や就職活動に役立つイベント情報、福祉のお仕事の魅力などを発信しています! ぜひフォローをお願いします。

Instagram

お申し込み・お問い合わせは

鳥取県男女共同参画推進企業

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
鳥取県福祉人材センター
〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)
TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
開設日:月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 時間:午前8時30分から午後5時

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

◀鳥取県社会福祉協議会ホームページ

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)
URL https://www.tottori-wel.or.jp e-mail soumu@tottori-wel.or.jp

福祉人材の確保・育成・定着を支援します

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp

◀福祉人材センターインスタグラム公式アカウント

ボランティア活動の幅を広げる活動を応援します

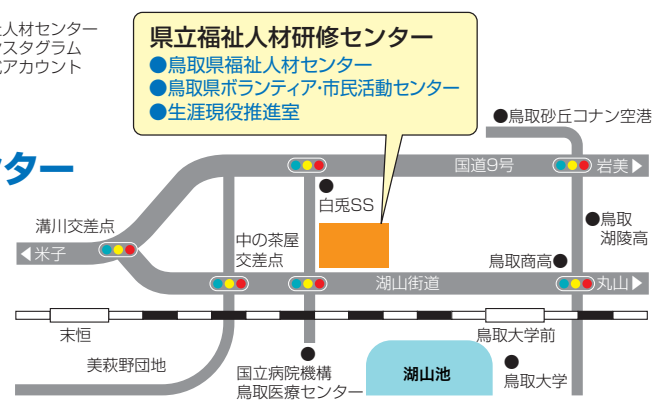
鳥取県ボランティア・市民活動センター

TEL.0857-59-6344 FAX.0857-59-6341
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

元気な高齢者の生きがい・社会貢献を支援します

生涯現役推進室

TEL.0857-59-6338 FAX.0857-59-6340
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp



SUPPORTER 広げよう!あいサポート運動

本誌について、また、福祉に関することについて県民のみなさまからの御意見をお寄せください。

「ホットアイ123号」アンケート回答フォーム

「HOTeye ホットアイ」第123号／令和8年11月発行
発行／社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内) TEL.0857-59-6331 FAX.0857-59-6340
印刷／中央印刷株式会社

再生紙を使用しています。